
さぬき市総合計画のためのアンケート調査
【結果報告書 概要版】

平成30年7月

さぬき市

市民アンケート調査結果について

1. 調査の概要

本調査は、「第2次さぬき市総合計画」の前期基本計画の見直しに当たり、身近な生活環境、防災・防犯、教育、福祉など、様々な取組に対する市民の皆様の評価及び今後のまちづくりに対する意向を把握するために、18歳以上の市民を対象に実施しました。

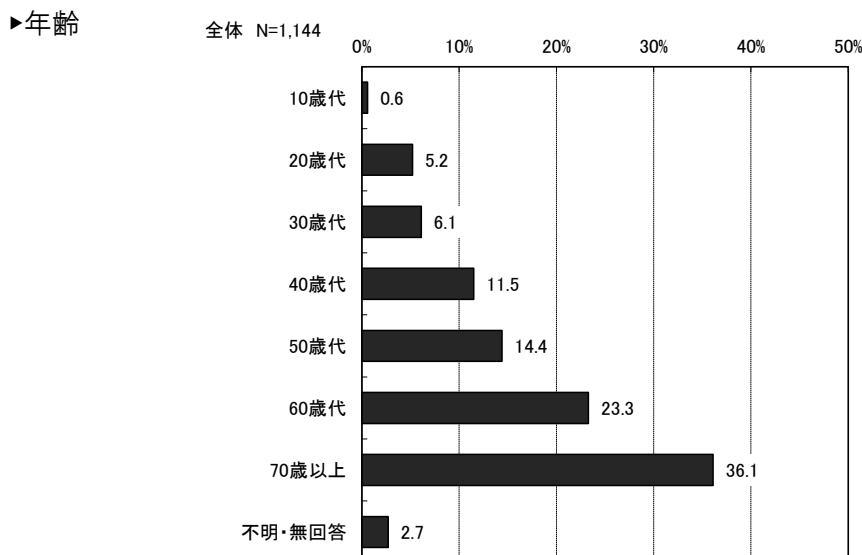
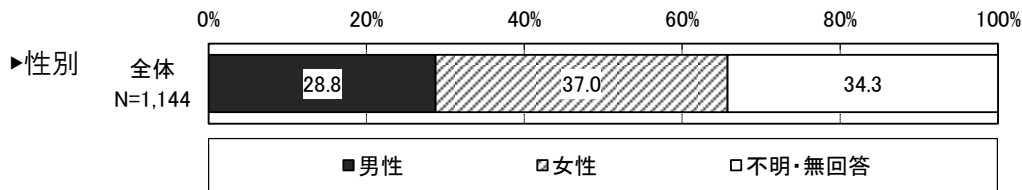
- 調査地域：さぬき市全域
- 調査対象者：18歳以上の市民
- 抽出方法：無作為抽出
- 調査期間：平成30年1月15日～平成30年1月29日
- 調査方法：郵送配布、郵送回収

調査票	調査対象者数 (配布数)	回収数	回収数	
			有効回答数※	有効回答率※
総合計画に関する アンケート調査	2,500件	1,153件	1,144件	45.8%

※有効回答数、有効回答率は、回収数から無効回答分（白票・回収期限を超えたもの）を除いたものです。

2. 回答者について

- 性別では、「男性」が28.8%、「女性」が37.0%となっています。
- 年齢では、「70歳以上」が36.1%と最も高く、次いで、「60歳代」が23.3%、「50歳代」が14.4%となっています。



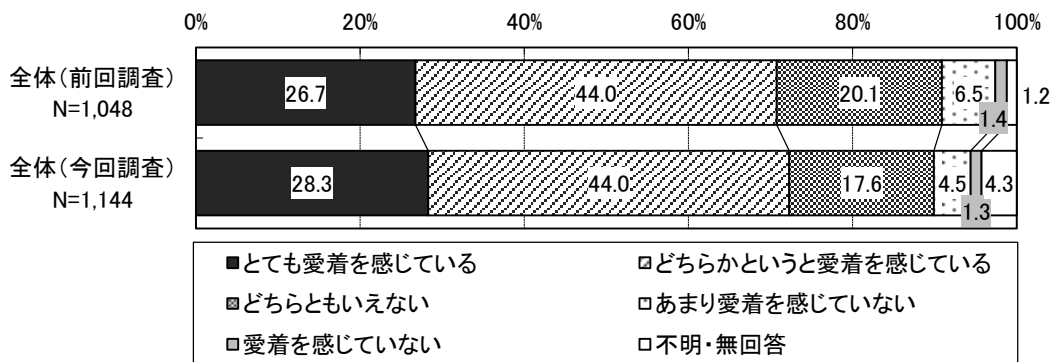
3. 結果の抜粋

① 市への愛着度

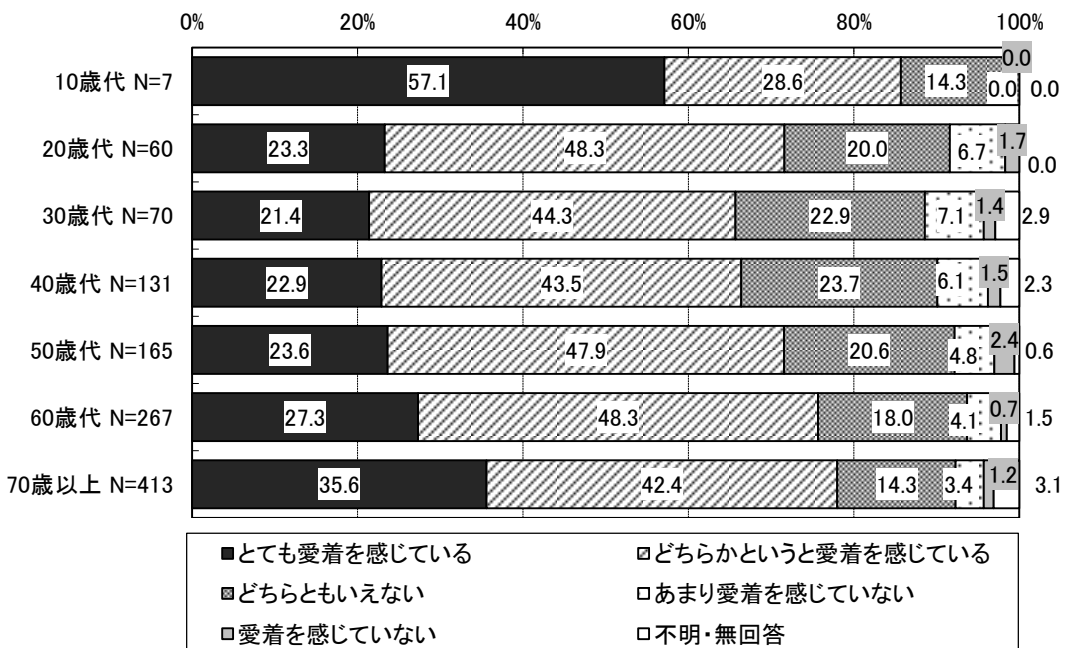
⇒ 7割以上が市に愛着を感じており、前回調査よりもわずかに増えている

- 市民の市に対する愛着度は、今回調査において、「どちらかというとな愛着を感じている」が44.0%と最も高く、次いで、「とても愛着を感じている」が28.3%、「どちらともいえない」が17.6%となっており、『愛着がある（とても愛着を感じている＋どちらかというとな愛着を感じているの合計）』と回答された方が72.3%となっています。
- 前回調査と比較すると、「とても愛着を感じている」の割合が増加しており、『愛着がある』の回答は1.6ポイント上昇しています。
- 年齢別では、『愛着がある』と回答された方は、30歳代が65.7%と最も低く、30歳代から70歳以上にかけて、年齢が上がるほど割合が高くなっています。

▶市への愛着度



▶市への愛着度（年齢別）



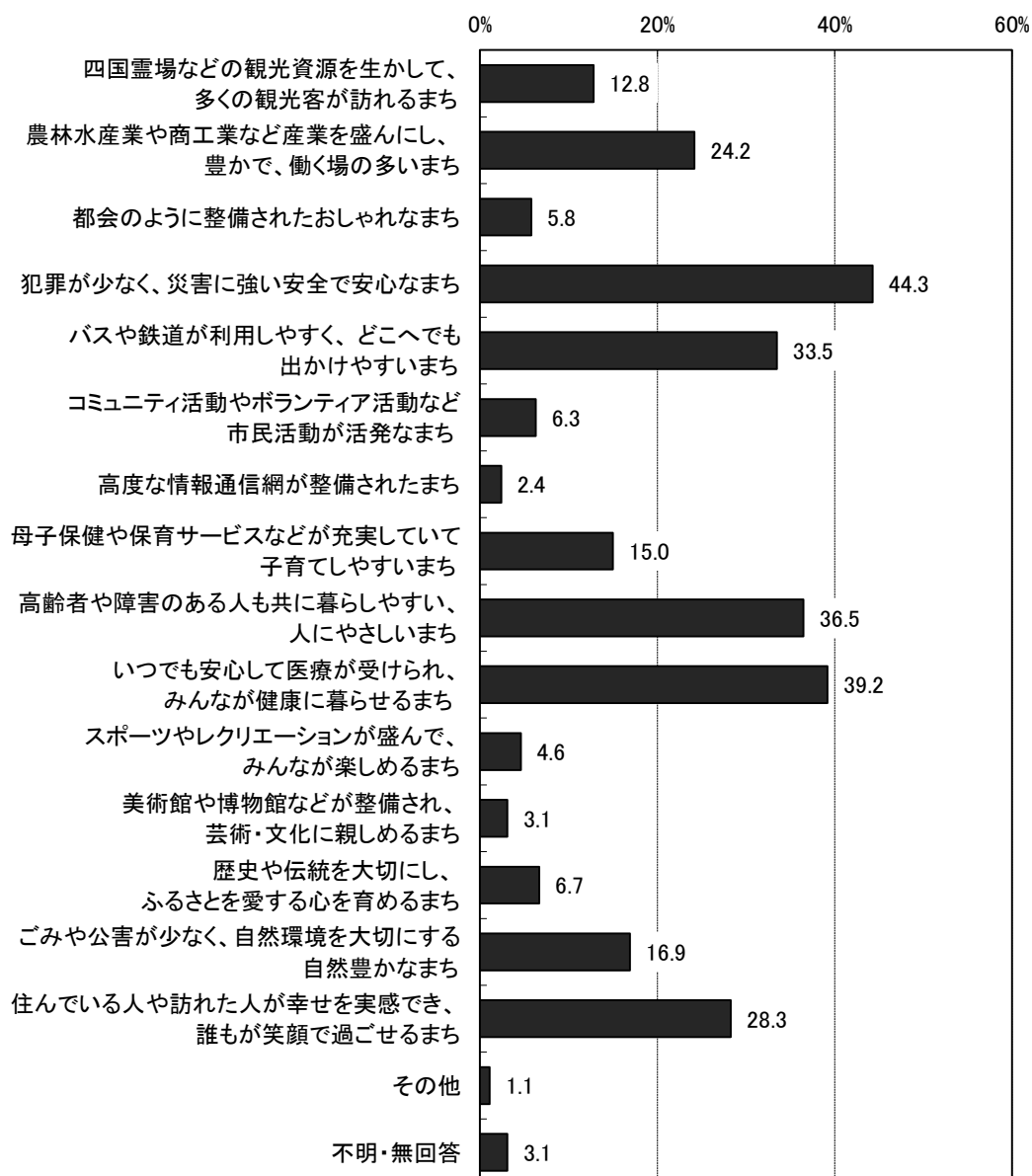
② 今後のまちづくりの希望

⇒前回調査と同様に、安全で安心なまちづくりへの希望が高い

- 今後のさぬき市について、どのようなまちになれば良いと思うかでは、「犯罪が少なく、災害に強い安全で安心なまち」が44.3%と最も高く、次いで、「いつでも安心して医療が受けられ、みんなが健康に暮らせるまち」が39.2%、「高齢者や障害のある人も共に暮らしやすい、人にやさしいまち」が36.5%となっています。
- 前回調査では、「犯罪が少なく災害に強い安全で安心なまち」が最も高く、次いで「高齢者なども暮らしやすく人にやさしいまち」、「いつでも医療が受けられ健康に暮らせるまち」となっており、同様の傾向がみられます。

▶今後のさぬき市について、どのようなまちになれば良いと思いますか（複数回答）

全体 N=1,144

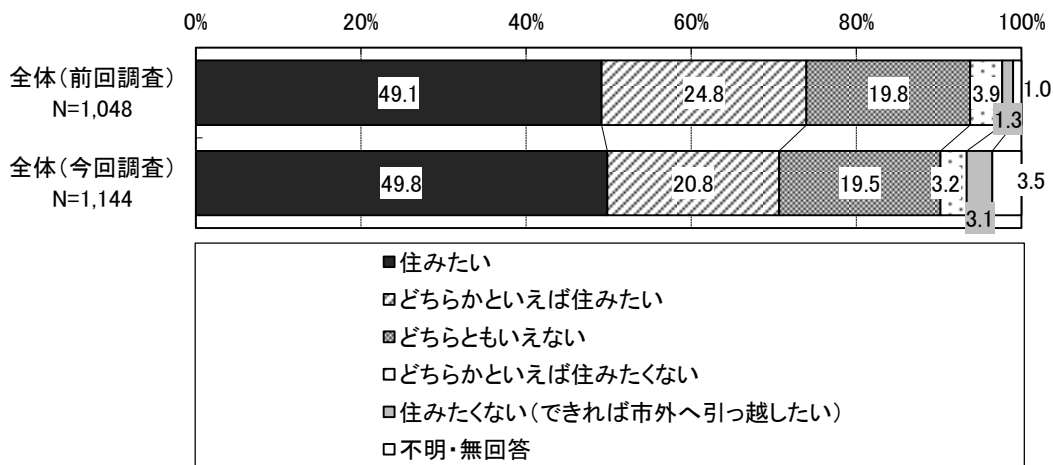


③ 今後の定住意向

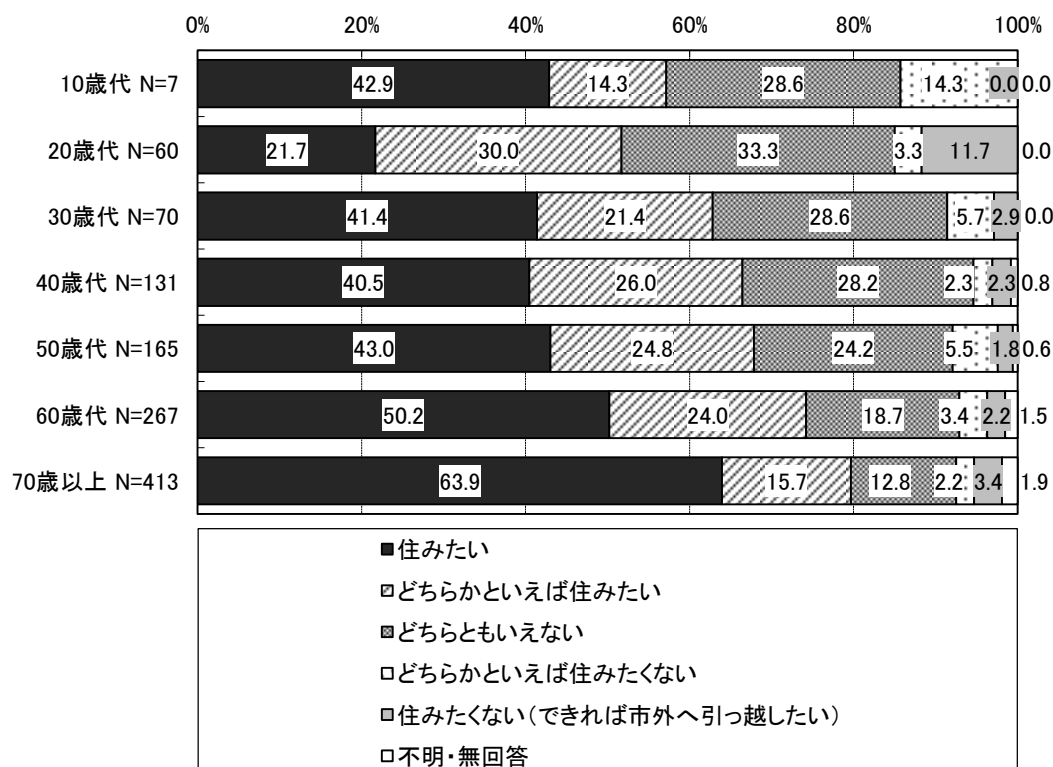
⇒定住意向は二極化しており、20代の定住意向が低い

- 今後の定住意向では、今回調査において、「住みたい」が49.8%と最も高く、次いで、「どちらかといえば住みたい」が20.8%、「どちらともいえない」が19.5%となっており、『住みたい（住みたい+どちらかといえば住みたいの合計）』と回答された方が70.6%となっています。
- 前回調査と比較すると、「住みたい」の回答が0.7ポイント上昇している一方で、「住みたくない（できれば市外へ引っ越したい）」の回答も1.8ポイント上昇しています。
- 年齢別では、『住みたい』と回答された方は、20歳代が51.7%と最も低く、20歳代から70歳以上にかけて、年齢が上がるほど割合が高くなっています。

▶今後の定住意向



▶今後の定住意向（年齢別）



④ まちづくりの状況に関する満足度

⇒満足度の高い項目は「資源循環型社会の構築」、満足度の低い項目は「商工業の振興と産学官の連携強化」

- 満足度が最も高い項目は、「資源循環型社会の構築」が 2.4 点、次いで、「生活安全対策の推進」が 1.9 点、「消防・防災体制の充実」「墓地・斎場の整備」「上下水道の維持・整備」がそれぞれ 1.7 点となっています。
- 満足度が最も低い項目は、「商工業の振興と産学官の連携強化」が-2.0 点、次いで、「雇用の場の確保と労働環境の充実」が-1.8 点、「住環境の整備と都市計画の推進」が-1.6 点となっています。
- 前回調査と比較すると、住環境に関する項目（前回：公園・緑地の整備、住宅対策の推進）では、満足度が下がっており、消防・防災に関する項目（前回：災害に強いまちづくり）や家庭教育に関する項目（前回：家庭教育の充実）、子育て支援に関する項目（前回：子育て支援の充実）では、前回調査より満足度が上がっています。

前期基本計画の基本目標に沿って、6分野 39 項目ごとに「満足している」、「どちらかといえば満足している」、「どちらともいえない」、「どちらかといえば不満である」、「不満である」の5段階で評価してもらい、その結果を加重平均値 [下記参照] による数量化で評価点（満足度：最高点 10 点、中間点 0 点、最低点 -10 点）を算出しました。

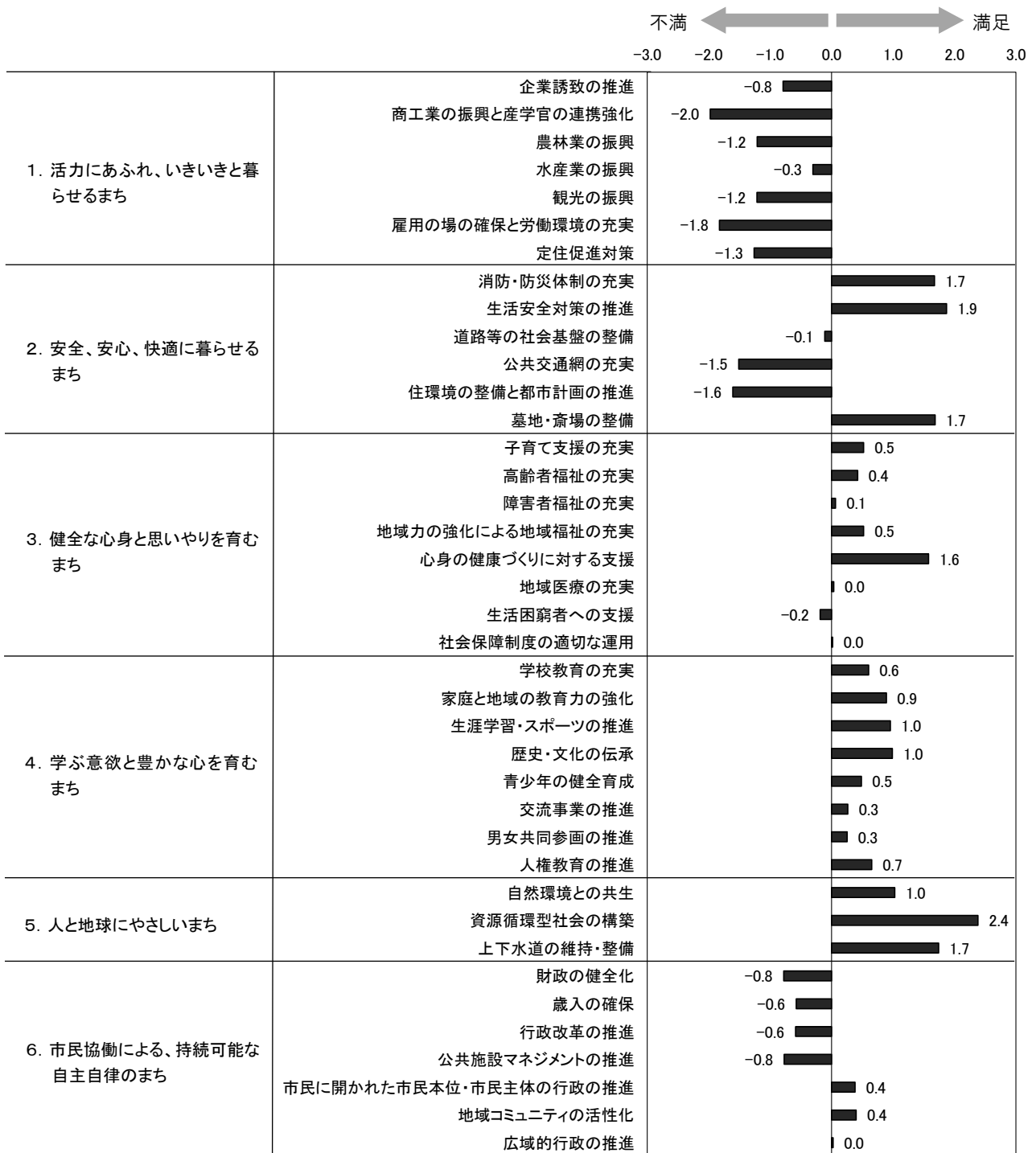
※加重平均値の算出方法

5段階の評価にそれぞれ点数を与え、評価点（満足度）を算出する。

$$\text{評価点} = (\text{「満足している」の回答者数} \times 10 \text{点} + \text{「どちらかといえば満足している」の回答者数} \times 5 \text{点} + \text{「どちらともいえない」の回答者数} \times 0 \text{点} + \text{「どちらかといえば不満である」の回答者数} \times -5 \text{点} + \text{「不満である」の回答者数} \times -10 \text{点}) \div (\text{「満足している」, 「どちらかといえば満足している」, 「どちらともいえない」, 「どちらかといえば不満である」, 「不満である」の回答者数の合計})$$

▶まちづくりの状況に関する満足度

(単位：点)



▶ (参考) 前回調査の上位項目・下位項目

	上位3位	下位3位
1位	上水道の安定供給	雇用の場の確保と労働環境の充実
2位	健康づくりと疾病予防対策の推進	農業の振興
3位	墓地・斎場の整備	財政の健全化と行政運営の効率化

⑤ まちづくりの状況に関する重要度

⇒重要度の高い項目は「消防・防災体制の充実」「生活安全対策の推進」。

前回調査と同様の傾向がみられる

- 重要度が最も高い項目は、「消防・防災体制の充実」「生活安全対策の推進」がそれぞれ 6.4 点、次いで、「地域医療の充実」「財政の健全化」がそれぞれ 6.3 点、「学校教育の充実」が 6.2 点となっています。
- 上位の項目は、前回調査と同様の項目が高くなっていますが、学校教育に関する項目（前回：教育環境の整備と教育内容の充実）では、前回調査よりも重要度が上がっています。

満足度と同様に、6分野 39 項目について、「重要である」、「やや重要である」、「どちらともいえない」、「あまり重要でない」、「重要でない」の5段階で評価してもらい、その結果を加重平均値 [下記参照] による数量化で評価点（重要度：最高点 10 点、中間点 0 点、最低点 -10 点）を算出しました。

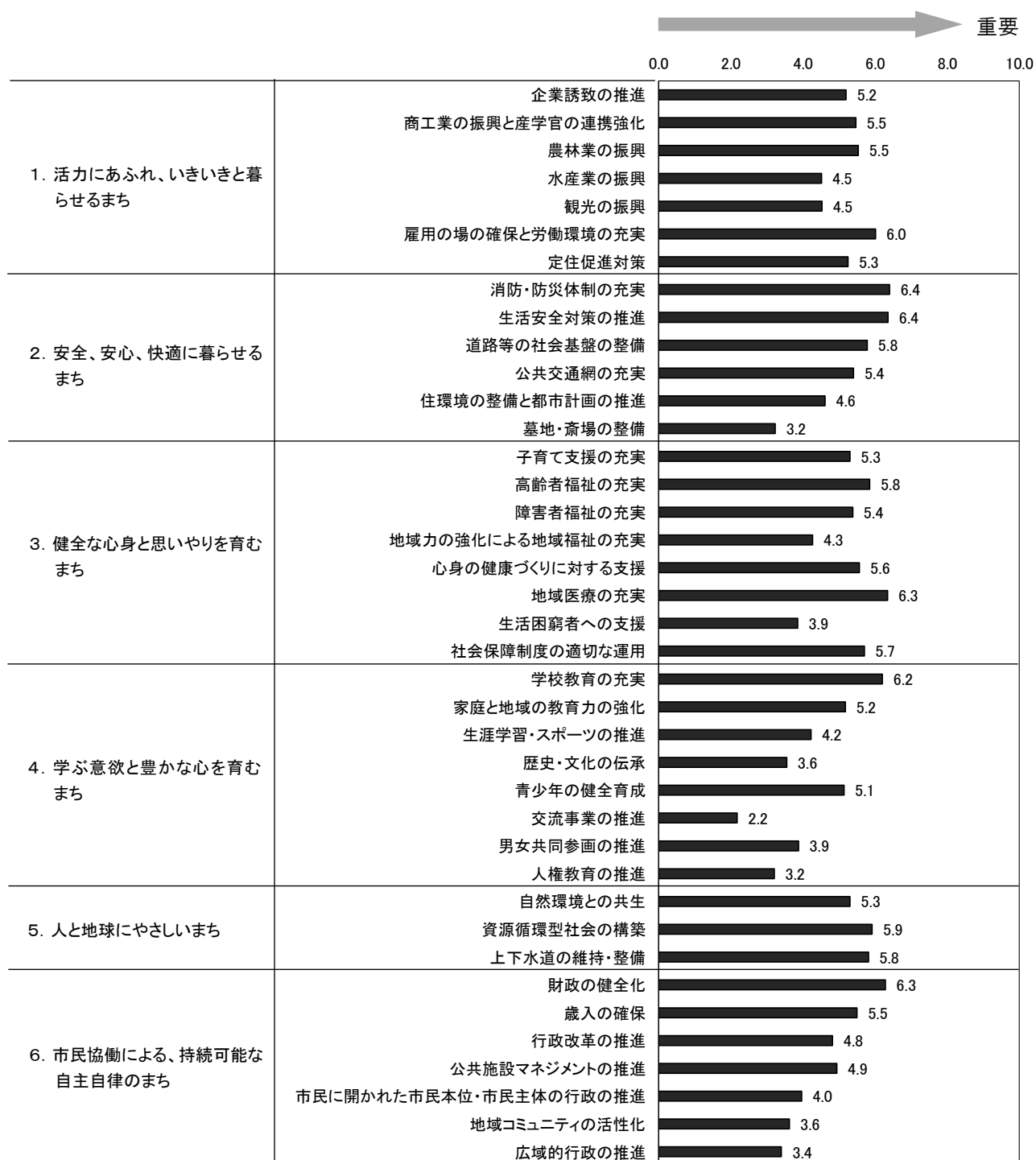
※加重平均値の算出方法

5段階の評価にそれぞれ点数を与え、評価点（重要度）を算出する。

評価点 = (「重要である」の回答者数 × 10 点 + 「やや重要である」の回答者数 × 5 点 + 「どちらともいえない」の回答者数 × 0 点 + 「あまり重要でない」の回答者数 × -5 点 + 「重要でない」の回答者数 × -10 点) ÷ (「重要である」、「やや重要である」、「どちらともいえない」、「あまり重要でない」、「重要でない」の回答者数の合計)

▶まちづくりの状況に関する重要度

(単位：点)



▶ (参考) 前回調査の上位項目

1位	新市民病院を核とした医療体制整備
2位	災害に強いまちづくり
3位	犯罪と交通事故のないまちづくり
4位	雇用の場の確保と労働環境の充実

⑥ 市の各施策の優先度

⇒優先度の最も高い項目は「雇用の場の確保と労働環境の充実」。

商工業や観光の振興へのニーズも高まっている

- 優先度が最も高い項目は、「雇用の場の確保と労働環境の充実」が 17.2 点、次いで、「財政の健全化」が 13.3 点、「商工業の振興と産学官の連携強化」が 13.2 点となっています。
- 前回調査と比較すると、上位 2 位は同様の項目になっており、商工業に関する項目（前回：商業の振興）や観光の振興に関する項目（前回：観光の振興）では、前回調査より優先度が上がっています。また、消防・防災に関する項目（前回：災害に強いまちづくり）や防犯・交通安全に関する項目（前回：犯罪と交通事故のないまちづくり）、子育て支援に関する項目（前回：子育て支援の充実）では、前回調査より優先度が下がっています。

今後優先的に取り組むべき施策項目を抽出するために、満足度評価と重要度評価を相関させた散布図を作成しました。このグラフでは左上隅の「満足度評価最低・重要度評価最高」に近づくほど優先度が高くなり、右下隅の「満足度評価最高・重要度評価最低」に近づくほど優先度が低くなります。この散布図からの数量化[下記参照]による分析で優先度(評価点:最高点 42.43 点、中間点 0 点、最低点 -42.43 点)を算出しました。

※優先度の算出方法

①散布図を作成するため満足度偏差値・重要度偏差値を算出する。

例：「雇用の場の確保と労働環境の充実」→満足度偏差値 31.89…、重要度偏差値 60.19…

②①で算出した偏差値から平均（中心）からの距離を算出する。

例：「雇用の場の確保と労働環境の充実」→ $20.78\dots = \sqrt{(31.89-50)^2 + (60.19-50)^2}$

③平均（中心）から「満足度評価最低・重要度評価最高」への線と平均（中心）から各項目への線の角度を求める。

例：「雇用の場の確保と労働環境の充実」→15.65 度

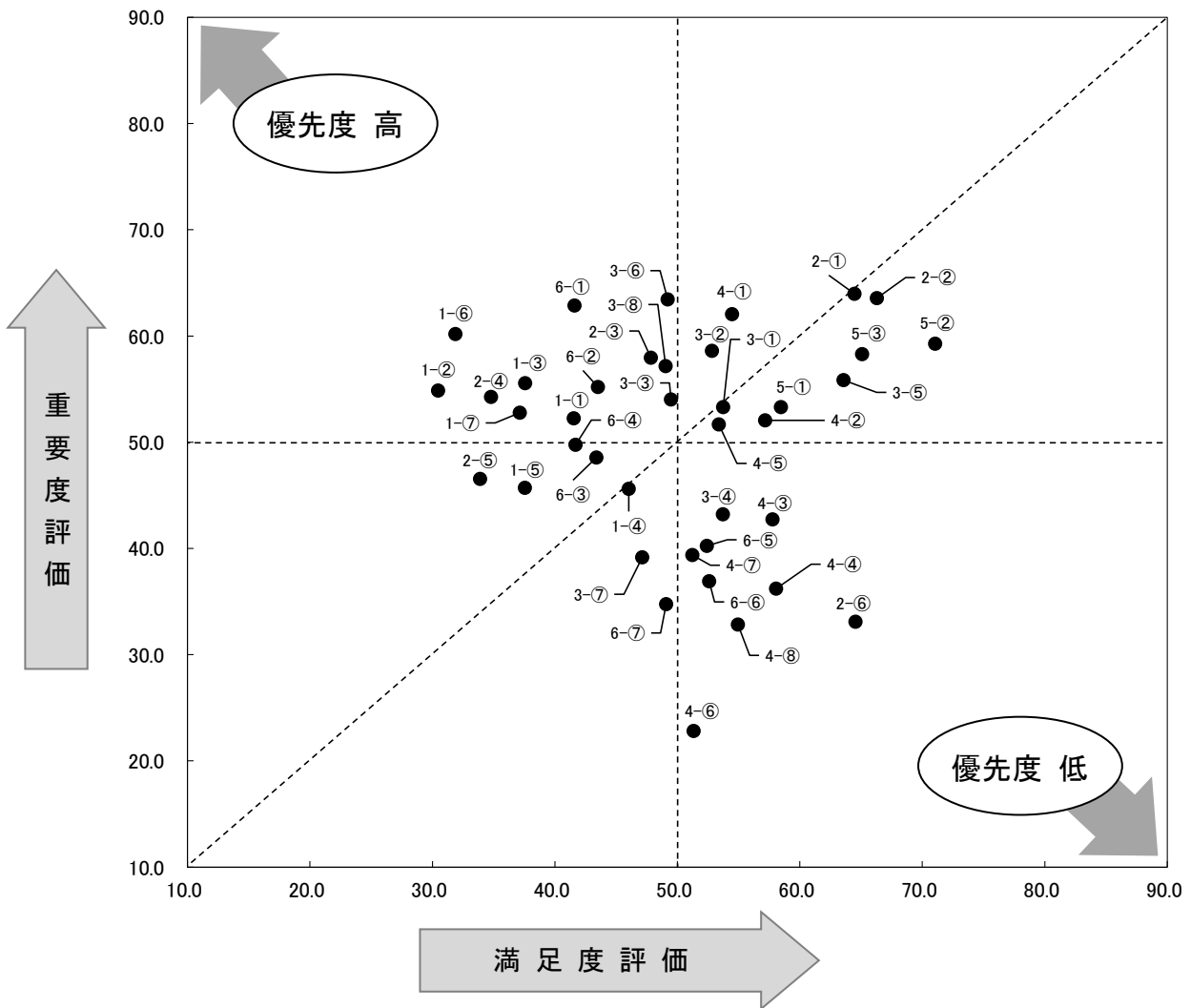
④③で求められた角度より修正指数を算出する（指数は下記のとおり設定し、左上隅の「満足度評価最低・重要度評価最高」に近づくほど得点が高くなる。）。

例：「雇用の場の確保と労働環境の充実」→ $0.8262 = (90-15.65) \times (1 \div 90)$

⑤②で算出された平均（中心）からの距離と④で算出された修正指数から優先度を算出する。

例：「雇用の場の確保と労働環境の充実」→ $17.17 = 20.78\dots \times 0.8262\dots$

▶満足度と重要度の相関（優先度）散布図



優先度高い		優先度低い	
1位 1-⑥ 雇用の場の確保と労働環境の充実	12位 3-⑧ 社会保障制度の適切な運用	1位 2-⑥ 墓地・斎場の整備	12位 3-⑦ 生活困窮者への支援
2位 6-① 財政の健全化	13位 6-④ 公共施設マネジメントの推進	2位 4-⑥ 交流事業の推進	13位 3-⑤ 心身の健康づくりに対する支援
3位 1-② 商工業の振興と産学官の連携強化	14位 1-⑤ 観光の振興	3位 4-④ 歴史・文化の伝承	14位 5-③ 上下水道の維持・整備
4位 2-④ 公共交通網の充実	15位 4-① 学校教育の充実	4位 4-⑧ 人権教育の推進	15位 4-② 家庭と地域の教育力の強化
5位 1-③ 農林業の振興	16位 3-② 高齢者福祉の充実	5位 4-③ 生涯学習・スポーツの推進	16位 5-① 自然環境との共生
6位 1-⑦ 定住促進対策	17位 6-③ 行政改革の推進	6位 6-⑥ 地域コミュニティの活性化	17位 2-② 生活安全対策の推進
7位 6-② 歳入の確保	18位 3-③ 障害者福祉の充実	7位 6-⑦ 広域的行政の推進	18位 4-⑤ 青少年の健全育成
8位 3-⑥ 地域医療の充実		8位 6-⑤ 市民に開かれた市民本位・市民主体の行政の推進	19位 2-① 消防・防災体制の充実
9位 2-⑤ 住環境の整備と都市計画の推進		9位 3-④ 地域力の強化による地域福祉の充実	20位 3-① 子育て支援の充実
10位 1-① 企業誘致の推進		10位 4-⑦ 男女共同参画の推進	21位 1-④ 水産業の振興
11位 2-③ 道路等の社会基盤の整備		11位 5-② 資源循環型社会の構築	

⑦ 幸福感を高めるために必要なもの

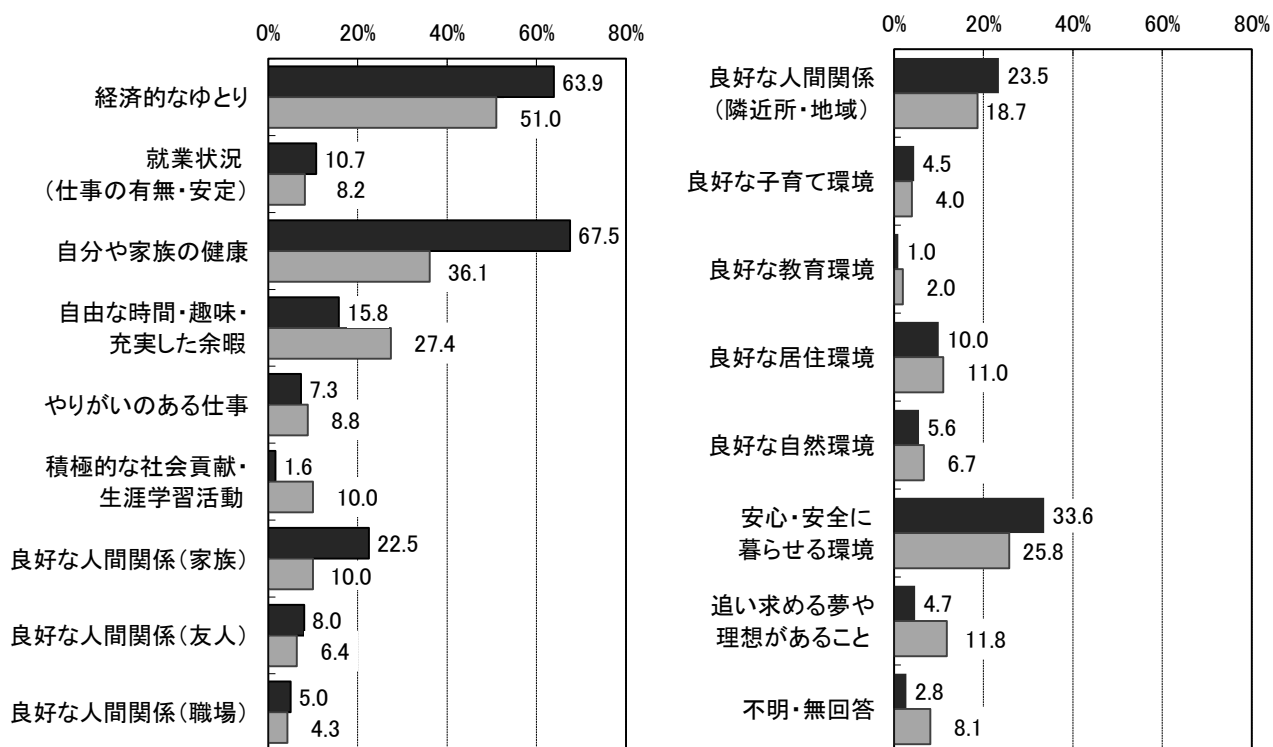
⇒幸せでいるためには、「自分や家族の健康」「経済的なゆとり」の優先度が高く、+αとして「自由な時間・趣味・充実した余暇」「社会貢献・生涯学習」の充実を求める人が増える

- 「幸せ」でいるために、重要だと思う事項では、「自分や家族の健康」が67.5%と最も高く、次いで、「経済的なゆとり」が63.9%、「安心・安全に暮らせる環境」が33.6%となっています。
- 幸福感をさらに高めるために、今足りていない（さらに高めたい）と思う事項では、同様に「経済的なゆとり」、「自分や家族の健康」が高いものの、「自由な時間・趣味・充実した余暇」「積極的な社会貢献・生涯学習活動」においては、今足りていない（さらに高めたい）と答えた割合が高くなっています。

▶「幸せ」でいるために、重要だと思う事項（複数回答）

▶幸福感をさらに高めるために、今足りていない（さらに高めたい）と思う事項（複数回答）

全体 N=1,144



■問21 「幸せ」でいるために、重要だと思う事項

□問22 幸福感をさらに高めるために、今足りていない（さらに高めたい）と思う事項